

# 大きくて美味しいさくらんぼの新品種「HC10」の開発

## 背景

果実の硬さなど品質に課題があり、「佐藤錦」の授粉樹とならない「南陽」に換わる品種が求められている。

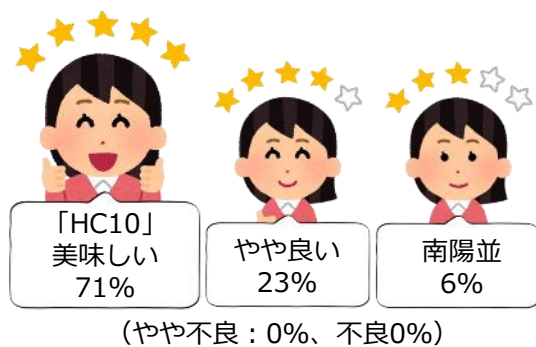
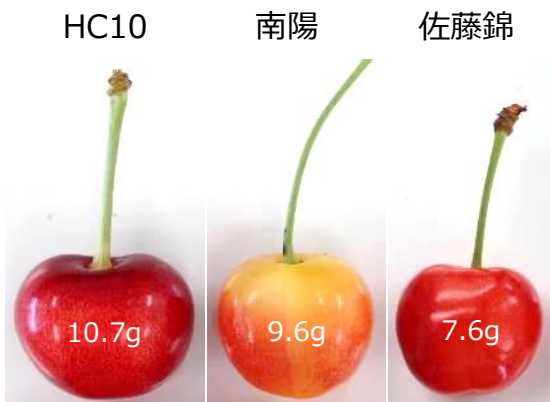


## 成果

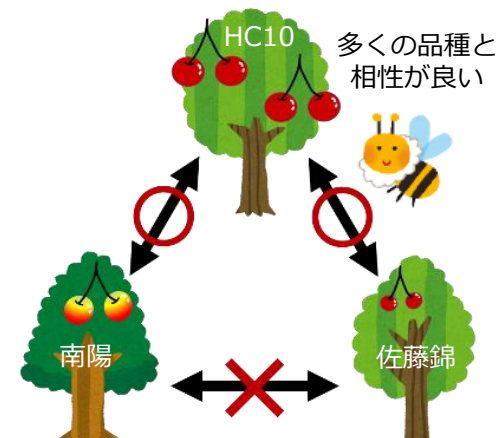
1 「南陽」より真っ赤で大きい

2 「南陽」より美味しい

3 園地の結実安定に貢献



「南陽」と比較した食味アンケート結果



## 期待される効果

「HC10」を「南陽」に換わる品種として普及させ、道産さくらんぼの高品質化と安定生産に貢献する。

(協力機関：後志農業改良普及センター北後志支所、空知農業改良普及センター北空知支所、留萌農業改良普及センター南留萌支所)

# DNAを利用した道内黒毛和牛の能力診断システム

## 背景

道内黒毛和牛の改良速度向上のため、全道生産者が利用可能なDNAによる能力診断システムの構築が必要。

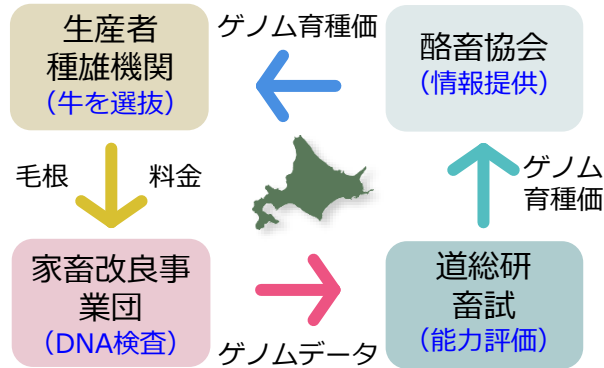


## 成果

### 1 能力診断システムの構築

申請から約1カ月でゲノム育種価\*を提供

\*肉量、肉質等の8項目について、DNA情報から評価した親から子へ伝える能力



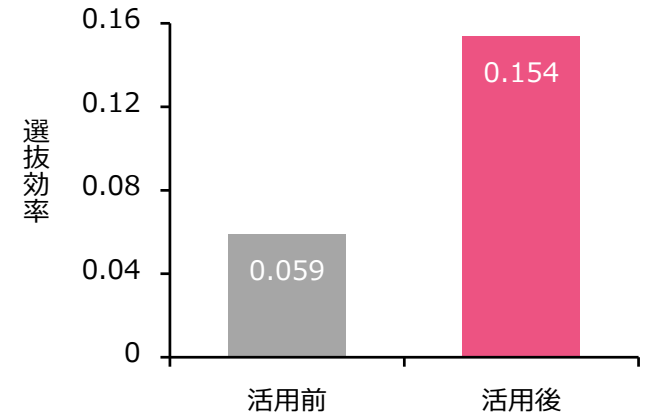
### 2 北海道独自の能力診断

牛肉の美味しさに関わる2項目は独自に設定



### 3 改良速度の向上度試算

道内牛群の能力は約2.6倍の速度で向上



## 期待される効果

全道生産者は雌牛の早期選抜に、全道種雄機関は雄牛候補の早期選抜に活用可能

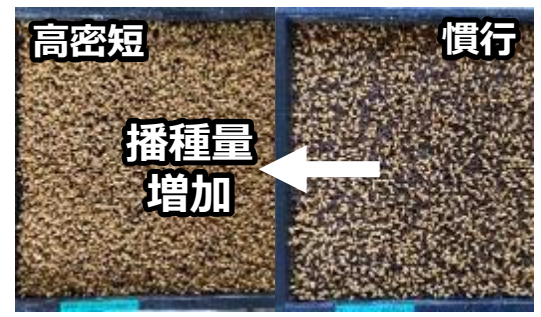
（協力機関：平取町農協、十勝農業協同組合連合会、（一社）ジェネティクス北海道、（株）十勝家畜人工授精所、（一社）北海道酪農畜産協会、普及センター）

# こうみったん 苗箱数も育苗期間も減らします！「えみまる」高密度短で米作り

## 背景

「高密度」：高密度播種・短期育苗の略称。  
「えみまる」：高密度短や直播などの省力栽培に適した早生の水稻新品種。

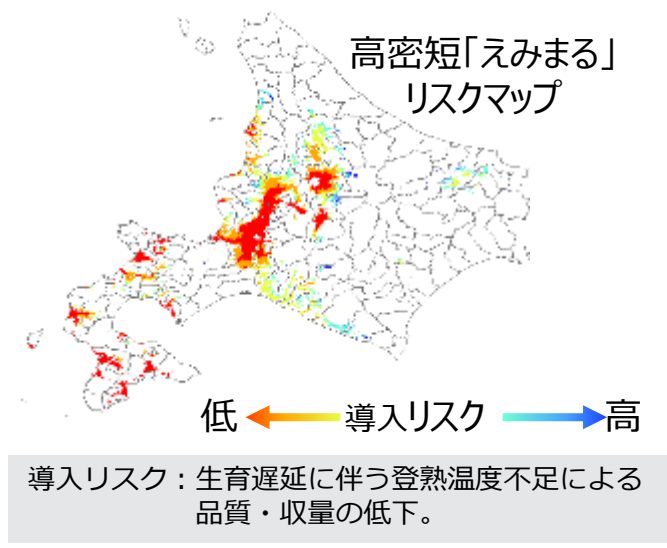
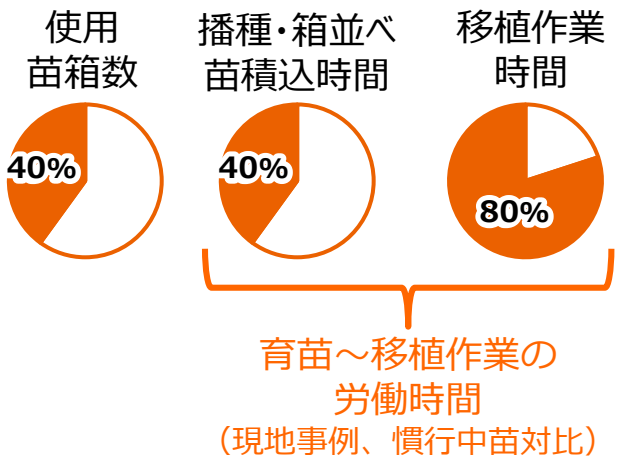
水稻の育苗、移植作業において、温暖化や担い手不足といった状況変化に対応する技術が求められている。



(水稻育苗箱の播種量比較)

## 成果

- 1 資材量、労働時間を削減
- 2 早生の「えみまる」の利用で導入リスク低減
- 3 技術導入マニュアルを作成



目標苗形質と育苗管理法を提示

## 期待される効果

労働力が不足する中で、経営体の規模拡大や水張り面積の維持に活用。

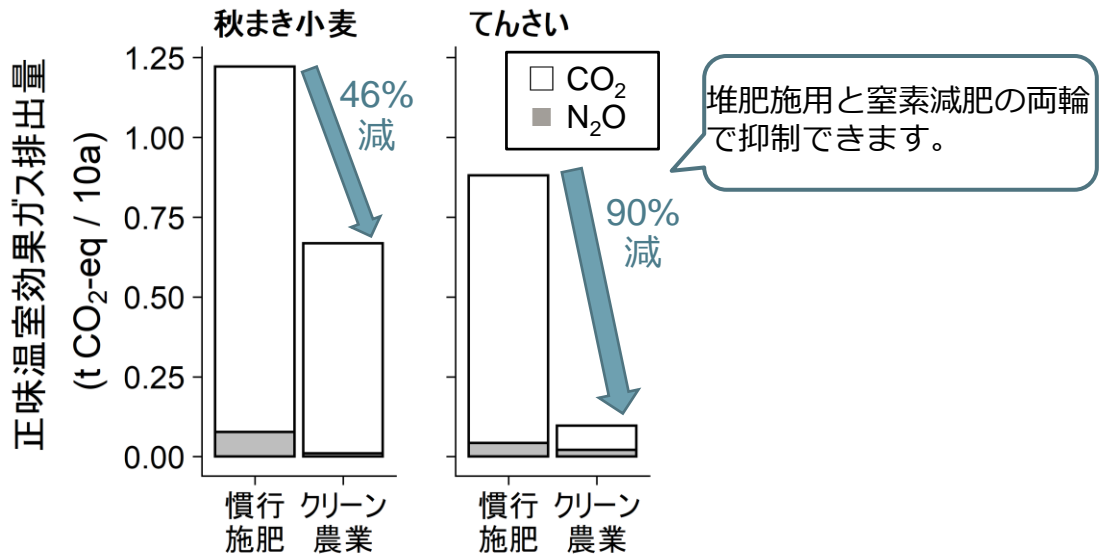
# クリーン農業は温室効果ガス排出量も少ない

## 背景

農業は地球全体の温室効果ガス排出量の25%を占めるが、クリーン農業による排出抑制効果は明らかではない。

## 成果

### 1 畑からの温室効果ガス排出を抑制



## 期待される効果

クリーン農業の環境保全効果を生産者、一般消費者等へのアピールに活用。

(協力機関：北海道農政部、北海道大学大学院農学研究院、十勝農業改良普及センター)

慣行施肥



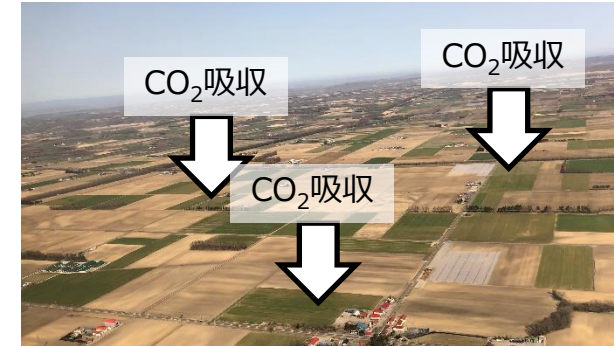
クリーン農業



※クリーン農業は、北海道が推進する、堆肥施用による土づくりに努め、減化学肥料・減化学農薬により環境との調和に配慮し、安全・安心、品質の高い農産物を安定生産する農業技術です。

### 2 現状の削減効果を評価

全道でクリーン農業の取り組みにより年間2.5万~2.7万トンのCO<sub>2</sub>を排出抑制



東京ドーム約1,000個分の森林のCO<sub>2</sub>吸収量に匹敵。

# 放牧とフリーストールを組み合わせることで労働生産性を向上



フリーストール牛舎

## 背景

北海道は省力的で低コストな飼養管理技術として放牧の普及を推進しているが、主流である繋ぎ飼養方式では省力化に限界がある

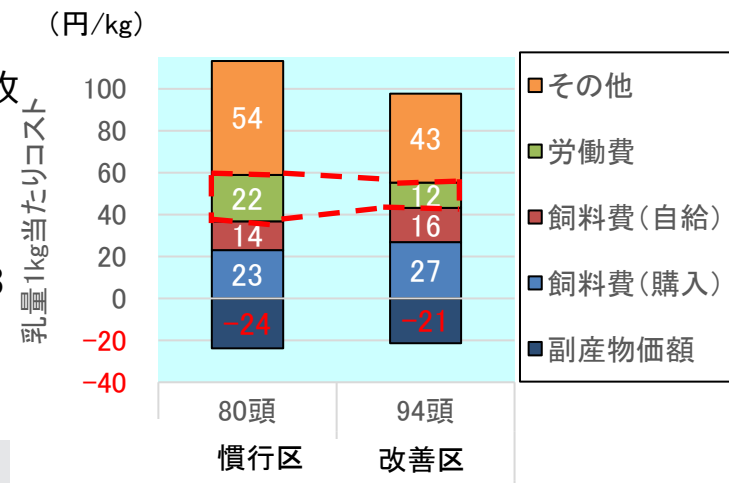
## 成果

### 1 労働生産性向上のポイント

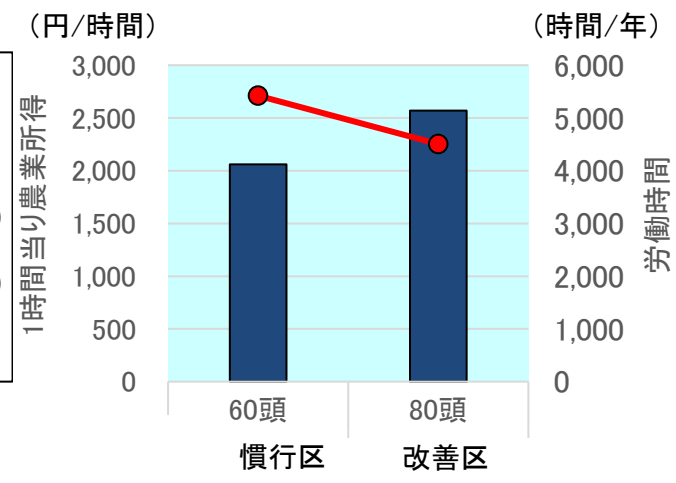
- 繋ぎ飼養方式
  - 1日毎に牧区を変更する小牧区放牧
- ↓
- フリーストール※飼養方式
  - 牧区面積を拡大し滞牧日数を2~3日とする中牧区放牧
  - 経産牛60頭から80頭に増頭

※牛が自由に歩き回れるスペースを持つ牛舎の形態で、搾乳等を省力化できる

### 2 コストを下げて所得を確保



### 3 増頭しても労働時間を削減



## 期待される効果

家族労働を中心とする放牧経営がフリーストール飼養方式を導入する際の判断に活用する。

■ 1時間当り農業所得 ● 労働時間